

イマヌエル教報

2022.

1

1947年7月1日第三種郵便物認可 2022年1月5日（毎月5日発行）

イマヌエル綜合伝道団

No.906

IMMANUEL

聖霊があなたがたの上に臨まれるとき、地の果てにまで、わたしの証人となります。（使徒1:8）

祈りによらなければ

マルコの福音書九章29節

教団代表 岩上祝仁



主の豊かな恵みと支えのうちに新しい年を迎えることができず、今年もコロナで始まり、コロナで終わった一年を過ごし、今年もコロナ後も見据えながら個人も教会も教団も進んで行かなければなりません。コロナによって私たちの生活そのものが大きく変化し、教会も戦いの中を通過しました。教会での礼拝に「集まること」ができなかった時期もありました。そのために、私たちは「教会とは、礼拝とは、信仰者の交わりとは何か」など、本質的なことが問われました。教会や信仰についてなど、私たち信仰者にとって本当に大切なことは何かを深く考える機会となりました。同時にコロナによってオンライン集会・会議や配信などの新しいツールが教会に与えられました。変化について行かない方々への配慮を忘れることなく、新しい技術を正しく使うことで将来への可能性も見出すことができるようになってきています。

時代の大きな変化の中で、教会もその存在とあり方を問い直しつつ、信仰者と教会が前に進む時に心に止めておかなければならないことを冒頭のみことばから学びたいと思います。この聖書の記事は、変貌山の出来事の最後に、麓では弟子たちと律法学者たちが悪霊に憑かれた息子とその父親を囲んで議論を重ね、右往左往していました。その問題を主が解決された後で、弟子たちに主イエスが語られた言葉です。主イエスは「祈りによらなければ」と弟子たちを教えられました。私たちの世界には常に実際のな面と霊的な面の二面性

があります。私たちの頭で考え、実際に最善だと思える行動をしても、そこに祈りによって神に働いて頂かなければ「空しい」結果が残ることがあります。ですからこそ主イエスは私たちに祈りなさいと教え、祈りへと招かれたのです。主イエスは祈りを愛されました。父なる神との交わりの時であり、祈りの中で問題や課題を乗り越えてゆかれました。また弟子たちに祈りの姿勢を見せるだけでなく、祈りそのものを教えてくださいました。主イエスの祈りから多くのことを学びましょう。

この出来事はマタイの福音書にも記述されていて、そこでは「からし種ほどの信仰があるなら」（マタイ一七・20）と主イエスは弟子たちに言われました。祈りによらなければと語りつつ、私たちの祈りに必要なことは父なる神に対する「信仰」だと主イエスは強調されたのです。私たちは課題や戦いの中で、主イエスが言われる「信仰の祈り」を捧げてゆきたいと思えます。新しい年、「信仰の祈り」にイマヌエルの群れを挙げて取り組みましょう。「祈りによらなければ」と教えられた主イエスは「わたしの名によって求めなさい」と私たちの祈りを助け、裏つけてくださるお方です。そして、私たちの祈りを聞いてくださるお方は、私たちの救いのためにご自分の御子をさへ惜しまずに死にわたしてくださいました愛の神です。このお方に全幅の信頼をおいて祈り続けてゆきましょう。希望は私たちの祈りを聞いてくださる神にあります。

目次

- 祈りによらなければ……岩上祝仁……1
- 局長 新年への期待・抱負……2
- 信徒フォーラム報告、女性牧師祈り会、燭台……3
- 海外トピックス、国内教会局コラム、読書のひろば……4
- 南日本ブロック、第77次年会案内、IWF理事会……5
- 広げた翼……6～8
- 聖宣神学院報……9～10
- 教育局・信徒局……11
- 公報、消息……12

Immanuel

期待・抱負

コロナ対応を模索しつつ

総務局長
寺村 秀嗣



「見よ、わたしは新しいことを行う。」(イザヤ書四三・19)

主の恵みと全国教会の祈りに支えられ新年を迎えることができました。本部職員一同、聖霊の恵みにより協力して主の教会に仕えていきたいと願っています。引き続きお祈りをよろしくお願いいたします。

新型コロナウイルス対応に追われるまま2年が過ぎ、本部運営も在宅での業務と交代勤務が定着してきた感があります。第5波後は午後の時間帯に限定して勤務を継続するようになりましたが、完全に以前の態勢に戻ることはないように思えます。以前は毎月本部から各教会宛に郵送物が発送されましたが、現在はメールでの連絡が基本となっております。新型コロナウイルス感染という想定外の出来事は社会の様々な部分に影響を及ぼしていますが、本部の効率的業務への移行をさらに後押しすることにもなっていくことでしょうか。一方で、職員間の緊密な連携が保てるように工夫していきたいと思えます。

期待・抱負

教会の主を仰ぎながら

国内教会局長
大兼久 芳規



「小さな群れよ、恐れることはありません。」(ルカ二二・32)

今は3つの教会を交互に回りながらの働きが続いています。足りなさ、忙しさはありますが、恵みも大きいのが主の教会です。

現在教団では、常駐牧師の派遣が許されない状況が続き、申し訳ない思いです。しばらくはこのような状況が続きますが、どのようにな各教会をお支えしたらよいのか、国内教会局のテーマです。主はご自身の血をもって教会を買い取ってくださいました。その教会に「恐れるな」と語ってください兼牧や協力、また合流や巡回を通して、教会を支えていってください。

コロナ禍以降、オンライン礼拝で、同じ時間に共に礼拝をおささげする営みがなされています。今後このようなツールを用いて、より礼拝が広がり、繋がりが、豊かさを教えてくれると思います。この年も御言葉のごとく、各教会が守られ、愛兄弟姉妹が集まれる場が豊かにされることを願います。

期待・抱負

詩篇72の聖句を握って

世界宣教局長
田辺 寿雄



「ほむべきかな。ただひとり奇しいみわざを行われる方。」(詩篇七二・18)

新しい年を展望する中で、このみことばが心に与えられています。「ただひとり」：神だけを見上げ、期待する信仰を与えて頂きたいと思えます。

「奇しいみわざを」：神の不思議なみわざ、想像を絶するような、ワクワクするような働きを思い描いて楽しみに待ちたいと思います。「行われる方」：神は必ず、奇しい不思議なことを行ってくださいと信じます。

各宣教師方の働きと生活の中に、神の奇しいみわざが展開されていきますように。全国の教会と信徒の間に、宣教への関心と祈りがさらに広がり、各宣教地で起こる神の不思議なわざに心躍らされる年となりますように。神の奇しい導きによって献身の思いを与えられ、牧師・宣教師を志す方々が起こされていきますように。宜しければご一緒に、大きな期待と夢をもって、お祈りにお加わりください。

期待・抱負

生活に息づく学びを

教育局長
小川 宣嗣



「あなたがたもわたしのくびきを負って、わたしから学びなさい。そうすれば、たましいに安らぎを得ます。」(マタイ一一・29)

昨年はコロナ禍2年目の制約が続いたことですが、教育局各部・各課の活動は、オンラインを中心として活発に継続されました。その背後には、主の大きなあわれみと、各地域教会の先生方や諸兄弟の温かいご理解やお祈り、そして実際に荷を担われた諸師の犠牲的なご愛労がありましたことを覚えて、深く感謝申し上げます。

迎えた年も、教育部の牧師の生涯教育や信徒伝道者研修及び信徒方の学びを支援する取り組み、また青少年部の次世代育成への取り組み……ビルド、Re、YSB、とにキャン、CSなど、一つひとつの尊い働きに主の導きを仰いでいきます。冒頭の聖句のように、教育局の働きが机上の知識的な学びで終わらずに、日常的・生涯的に主のくびきを負いつつ、主ご自身から学ばせて頂くことに繋がるものとなりますようお祈りください。

期待・抱負

堅立と成長に向けて

信徒局長
斎藤 純雄



「見よ、わたしは新しいことを行う。今それが芽生えている。」(イザヤ書四三・19)

前総会期に創設されました信徒局は、主に在る皆様の篤いお祈りとご支援に支えられて、最初の総会期を乗り越えることができました。実り多かつた4年目の歩みを締めくくり、更なる堅立と成長に向けての新しい歩みを、インマヌエルの主とともに継続してまいります。懸案だった第一回全国信徒フォーラムも、主の恵みとご真実のゆえに豊かな祝福をいただきました。また、皆様の信徒局に対する真摯なご要望・ご提言に耳を傾けつつ、教団運営委員会、国内教会局と連携しながら慎重に進められました全国のエリア制の組織作りも実現しました。

各地区・教区を代表する皆様によって、これからの信徒局の存在と働きが、一層キリストのみからだの建て上げのため、主によって貴く用いられていきますように、今後もお祈りに覚えていただければ幸いです。

信徒局 11月23日オンライン開催

第一回信徒フォーラム報告 クリスチャンとして この時代に生きること

信徒局長 斎藤純雄

して、世の事に関する賢明さと、主に対する愚直なまでの真実さが同時に求められている。

4 信じること、生きること

信じることは切り離せない。生活に現れる証しの力の回復が大切。たやすいことではないが、忍耐強く前進しよう。

講演Ⅱ「この時代に生きる」

「あなたがたが眠りから覚めるべき時刻がもう来ているのです。」(ローマ13・11)

1 「この時代に生きる」

世界に福音が満ちあふれるまでの、神の御手の中にある時であり、救いが近づいている。

2 開かれた家庭として生きる

私たちは神の家族の中に養子縁組していただいた者として、家族・家庭の在り方を聖書から見つめ直して、家族・家庭の交わりをもつと開いていくことが必要。

3 開かれた教会として生きる

・伝えることの大切さを見失うことなく仕える姿勢を持った教会へ
・招集から派遣へ
・教会だからこそ……世は神の言に飢え渴いている。

4 開かれた神の民として生きる

私たちは、主によって世に遣わされた神の民として、弱さ・足りなさ・悩みもありのままに神に向かつて精一杯生きて行きたい。

▼Zoom分ち合い

事前に申し込まれた47名の方々が、6グループに分かれて約1時間の恵みの分かち合いの時を持ちました。感謝でした。

3 クリスチャンとはいかなる生き方か

「蛇のようにさとく、鳩のように素直であれ」世に遣わされた者と

「地の塩としての存在」良く溶け込んで、良い影響力を与える。「世の光としての存在」自分をアピールするのではなく、「わたしは世の光です」と言われるキリストの光を反映するために、主に目を留め続けること。

女性牧師部から

女性牧師のお祈り会

女性牧師部 大場広子

「あなたがたのうちの二人が、どんなことでも地上で心を一つにして祈るなら、天におられるわたしの父はそれをかなえてくださいます。二人か三人がわたしの名において集まっているところには、わたしもその中にいるのです。」(マタイ一八・19、20)

* 第76次年会を越えて、新しい部長と部員による女性牧師部の活動が始まりました。その一つとして、Zoomを用いての女性牧師のお祈り会があります(奇数月は第一月曜日、午後8時半から。偶数月は第一月曜日、午前10時半からです)。

北は北海道、南は沖縄、さらに宣教地からも先生方が参加しておられます。また、引退された先生も数名参加してくださっています。お祈り会は、女性牧師部員によるショートメッセージから始まり、グループに分かれてのお祈りの時、そして先生方の近況報告などを自由に分ち合っていたりもしています。年代・立場の違いはありますが、それを越えて共に祈禱課題を共有して祈り合うことができます。恵みに感謝いたします。



仕事始め

クリスマス行事は縮小されても、相変わらず忙しい師走です。牧師という師業にあるからでしょうか。いい師走に走るのには、師業だけではありません。幼いころ実家の米屋は餅つきで忙しく、国鉄職員のお父は年末年始休めず、洋裁師の母は華やぐ人の年始の晴れ着の仕立てに夜なべ続きでした。

いくら年賀状やお歳暮が減ったとはいえ郵便、宅配業の方々は見るからに忙しそう。建設、飲食業、会社、役所、みなさん仕事納めで、どの職も走る、のが師走です。それにしても、どの街どの職、いろんな仕事があるものですね。いろんな先述の牧師、洋裁師の他、教師、医師、看護師、薬剤師、美容師、調律師、調教師、調理師、漫才師、道化師、詐欺師、ペテン師……ああ、ありすぎる。教え導く仕事で枠組みもクリエイティブ。魅力、能力、言葉悪く言えば人たらし的なものを要する職のよう。土業はどうでしょう。弁護士、公認会計士、税理士、司法書士、行政書士、建築士、歯科衛生士、理学療法士、作業療法士、救急救命士……、枚挙にいとまがない。

格を要する職業です。これら士と師で士師業。聖書の士師記で活躍するギデオン、サムソン等は主の任職による士師業のリーダーたちです。彼らはさばき司とも言われ、司業(保護司、福祉士など福祉関係)まで担っていたようで、常に師走の忙しさだったことでしょうか！

魚屋、米屋のように屋のつく仕事、また農家、商家、作家、政治家、断家、音楽家と家のつく仕事、また学者、労働者、伝道者、医者など者のつく仕事、また警察官、自衛官、官のつく仕事、教員、公務員、員のつく仕事。いろんな仕事がありますね。

近所の家屋解体現場は、クリスマスも休みなしだそう、飛び交う言葉は外国語です。笑い声こぼれてくると、ほっとはしますが、労働実状への疑問は拭えませんが、禍中の一年、みなさんもお仕事、本当にお疲れさまでした。人知れずの過ぎた労、理不尽、忍耐、お疲れさまでした。納めたかと思えば、もう仕事始め。2022年、どの国どの職のみなさんも、共にねぎらい合ってまいります。

(川村宏美)

サムライ業ともされ、法に則り枠組みしっかり、高い専門性と資

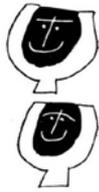
国内教会局から

コロナ禍にある教会
最善のゴールを備えて

新しい年を迎えました。個人の信仰生活でも、皆さんが所属する教会でも、年頭のみことばをいただきたい新しいスタートを切ったことでしょう。

聖書には、年の初めから終わりまで絶えず目をとどめておられる主の姿が記されています。新年の始まりにはすでに年の締め括りを見据え、恵みのうちに導いてくださるお方が私たちとともにおられるとは何と心強いことでしょう。

新しい年を迎えました。個人の信仰生活でも、皆さんが所属する教会でも、年頭のみことばをいただきたい新しいスタートを切ったことでしょう。



■京都ハリストス正教会の木造聖堂が国の重要文化財に指定へ
明治時代に建てられた京都市中京区にある「京都ハリストス正教会 生神女福音聖堂」（木造）が新たに国の重要文化財に指定されることになった。明治36年に建てられ、信者が集う「聖所」の奥に神父が祈りをささげる「至聖所」が設けられるなど、日本ハリストス正教会の本格的な木造聖堂としては、国内に現存する最古のもの。聖所と至聖所を隔てる「イコノスタス」と呼ばれる30枚の肖像画で作られた壁は、ロシアで制作され、意匠を凝らしたものと高く評価されている。同教会の及川信・長司祭は、「重要文化財の指定は、私たち信者や歴代の神父の悲願だったので、とても嬉しく喜ばしい。地域の皆さんの協力も得て聖堂を維持し、多くの皆さんに拝観に来ていただきたい」と話した。

■アラビア半島最大キリスト教会
がバーレーンに誕生
ペルシャ湾に浮かぶ中東の島国バーレーンに12月9日、アラビア半島地域で最大となるカトリックの教会が誕生。イスラム教徒が多数を占める同国ではキリスト教徒



海外トピックス

■ベツレヘムで、ツリー点灯式
イエス・キリストの生誕地とされるヨルダン川西岸のパレスチナ自治区ベツレヘムで12月4日、巨大なクリスマスツリーの点灯式が行われ、多数の市民がイルミネーションを楽しんだ。ツリーは1月中旬まで点灯される。
■ベツレヘムで、ツリー点灯式
イエス・キリストの生誕地とされるヨルダン川西岸のパレスチナ自治区ベツレヘムで12月4日、巨大なクリスマスツリーの点灯式が行われ、多数の市民がイルミネーションを楽しんだ。ツリーは1月中旬まで点灯される。
■ベツレヘムで、ツリー点灯式
イエス・キリストの生誕地とされるヨルダン川西岸のパレスチナ自治区ベツレヘムで12月4日、巨大なクリスマスツリーの点灯式が行われ、多数の市民がイルミネーションを楽しんだ。ツリーは1月中旬まで点灯される。

読書の

ひろば



2021年改訂版

イムマヌエル綜合伝道団

教義及び条例

インマヌエル出版事業部扱い
定価六六〇円（税込）

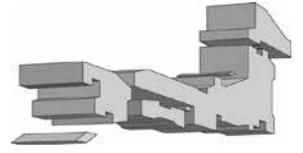
■ベツレヘムで、ツリー点灯式
イエス・キリストの生誕地とされるヨルダン川西岸のパレスチナ自治区ベツレヘムで12月4日、巨大なクリスマスツリーの点灯式が行われ、多数の市民がイルミネーションを楽しんだ。ツリーは1月中旬まで点灯される。

■ベツレヘムで、ツリー点灯式
イエス・キリストの生誕地とされるヨルダン川西岸のパレスチナ自治区ベツレヘムで12月4日、巨大なクリスマスツリーの点灯式が行われ、多数の市民がイルミネーションを楽しんだ。ツリーは1月中旬まで点灯される。

設からの時間が経てばたつほど、また、そこに関わる人の数が増えれば増えるほど、このような定めの重要度は増していきます。少しのずれが本質のずれになってしまったというようなことにならないために、なくてはならないものと言えるでしょう。
特に私たちの信仰に関わる部分は、私たちがどう考えるかによって動かしたり、変更を加えたりしてはならないものです。聖書の真理は変わることがないものだからです。
一方で、運営の実際については、時代の変化に対応する変更が必要な場合も当然出てきます。改訂は、三年に一度の総会で協議・決定されますが、最近の情勢を見ると、ご承知のとおり、自然災害や感染症によって、対面での会議を開けないケースを想定する必要があります。そこで今回は主にその部分についての改訂が行われ、「書面またはインターネット等の手段を用いる審議」に関する規定が加えられました。教会の総会や役員会に関する条項にも加えられています。これも時代を反映した改訂の一部になります。
みことばに「すべてのことを適切に、秩序正しく行いなさい」とありますが、その実際とも言えるのが「教義及び条例」です。ご希望があれば、信徒の方々にもお手に取っていただくことができます。所属教会の牧師を通して本部にお知らせください。（葛田順子）



国内教会局 スクエア



南日本ブロックの 近況と祈りの課題

ブロック・アドバイザー

阪下 謙

南日本ブロック（19の教会と2つの伝道所）のご報告や祈禱課題です。

新型コロナウイルス感染症の状況が落ち着きつつある中、それぞれの教会が今できることを模索しながら伝道、牧会に励んでいます。また、すべての教会がネットつながり、3教区とも教区会や教区の集会をZoomで行えるようになりまし

た。さらに教区内のコミュニケーションを大切に、交わりを深め、互いに祈り合い支え合って教会建設に励みたいと願っています。

中国教区

▼鳥取教会は9月19日から会堂での礼拝を再開、出席者は半数ほどです。特別な集会は計画していません。

▼松江教会は第5聖日礼拝に音楽プログラムを用いています。市民クリスマスに小冊子を地域に配布しました。

▼浜田教会は礼拝では平瀬師、南場師が隔月で当務を、祈禱会では内山師が毎月奉仕されています。

▼岡山教会は、10月から会堂とZoom併用で礼拝しています。10

近況と祈りの課題

阪下 謙

月は聖餐式月間とし、1回は教会に来て聖餐に与るようにしました。

▼広島教会はクリスマス・ミニコンサートを行います。教会の看板や十字架を設置する予定です。

▼呉教会は小中高生の働きに力を入れ、12月にはキッズとジュニアクラブのクリスマスを持ちたいと願っています。

▼山口教会は9月中旬から会堂での礼拝を再開。また10月17日には新会堂5周年記念礼拝を持ちました。

▼下関教会はホリー宣教師による宣教礼拝をZoomで持ちました。クリスマス礼拝などが救霊の働きに用いられるよう願っています。

北九州教区

▼北九州教会は会堂で集まる礼拝を再開しました。地域との接点を深めながら伝道の働きを進めています。

▼福岡教会も会堂に集まる礼拝を再開しました。インターネットの動画を用いての伝道を検討しています。

▼久留米教会は礼拝を会堂・オンライン併用で行っています。様々

なきっかけて新来会者が与えられるように励んでいます。

▼佐賀教会は3つの方法（会堂、Zoom、LINE）で礼拝しています。

▼長崎教会は中高生の働きに力を入れていきます。また、求道者の救いと受洗を目指し働きを進めています。

▼別府教会は午前・午後の二部礼拝をしています。様々な集会を通して救霊が進むことを目指しています。中津伝道所でも集会を再開して救霊の働きを進めています。

大分伝道所は求道者の救いと、CSに子どもが与えられるよう祈っています。

南九州教区

▼熊本教会はコロナ禍でも入信者が与えられました。また会堂の屋根の修理を行いました。

▼宮崎教会は会堂に集まれないときは他教会のオンライン礼拝に参加しています。LINEグループで祈禱課題などを共有しています。

▼鹿屋教会は与えられている求道者の救いを願って働きを進めています。40周年記念証し集の発行を目指しています。

▼始良教会は教会に集まっている求道者が救われるように働きを進めています。会堂の修復も進めています。

▼指宿教会は会堂に集まって礼拝を継続しています。指宿を離れた人とも連絡を取り合いながら救霊の働きを進めています。

総務局からのお知らせ

第77次年会開催要項 3月23日、24日 オンラインで開催

総務局長 寺村秀嗣

新型コロナウイルス感染症の影響を考慮し、オンラインでの年会開催に向けて準備を進めています。3年続けてのオンライン開催になります。ご理解とともにご協力をお願い申し上げます。

▼年会準備祈禱会をZoomで2回行います。

2月14日（月）14時～15時

3月14日（月）20時～21時

▼年会の日程とプログラム

3月23日（水）10時～開会礼拝、

議事会／16時半～聖会／19時半

～期別祈り会

3月24日（木）10時～組織改革委

員会報告、テーマ別フォーラム

／14時～宣教会／15時10分～按

手式、辞令交付、任命式

▼オンライン配信の会場は中目黒

教会です。基本的にZoomを使用しますが、聖会、宣教会などはYouTubeで公開します。

▼両日ともに午前9時半から自由

参加の祈禱会をZoomで行いま

す。

IWF理事会から

それぞれの課題を 乗り越える協力を

世界宣教局長 田辺寿雄

11月30日（火）午後、秋のIWF理事会がオンラインで開催されました。出席者は、IGMから岩上代表、大兼久師（国内教会局長）、

林師（神学院院长）、田辺（世界宣教局長）の4名、WGMからブランドン宣教師、GP（グローバル・パートナーズ）からホワイト宣教師の合計6名でした。WGMとGPそれぞれのアジア地区ディレクターは所用のため欠席でした。

まず、ブランドン宣教師によるデイポジションと祈りで始められ、その後、ホワイト宣教師とブランドン宣教師からそれぞれの働きについての報告、岩上代表からIGM全般にわたる簡単な報告がなされました。

特に、アメリカから日本に来られる宣教師にとっては、経済的に十分なサポートを集めることがとても困難な状況にあることが報告されました。そのために日本への赴任が先延ばしされるケースや、日本への宣教師になること自体を断念された方もおられるとのこと。新しい協力体制のあり方とともに検討していくべき時なのかもしれません。三者間の協力のためにお祈りください。

巻頭言

あなたの祈りは 覚えられています



世界宣教局
平瀬義樹

新春を迎えました。この年も世界宣教の働きを覚えて、尊いお祈りと変わらぬ主の愛をもって支え、秋から年末年始、いつもと違う



広げた翼

Immanuel His Wings

Department of World Missions

<http://www.immanuel.or.jp/world/>

世界宣教局

久しぶりの感覚を味わいました。紅葉、銀杏、秋の味覚、霜柱、木枯らし、冬一番。今さらながら新鮮な思いがします。おそらく、この正反対の事を久保先生ご一家は感じておられるのだらうと、宣教地で迎える初めての歩みに特別な祝福とみ守りをお祈りしました。宣教地では、コロナ禍で海外からの往来が「全面停止」され、いつでも帰国し宣教報告の機会が与えられると思っていた道がなかなか開かれませんでした。帰国後も、「自粛制限」により私生活はもとより教会活動にも様々な制限がなされ、解除後もなかなか元に戻りません。何が変わり何が変わらなかったか、結局残ったものは何かを祈りの中で沈黙黙考、自問自答しつつあります。

昨年末、私の中で大きく変わったことの一つが「クリスマスカード」です。受け取る側から送る側に戻り、一つ一つの宣教地に思いを寄せ、今年の宣教DVDの映像お祈りの課題を覚えながら、祈りつつ書きました。ペンを走らせながら、「このお祈りに支えられていたんだ」と改めて感謝しました。祈りを込めて送り届けられるカードは、宣教師とその家族にとつて何にも代えがたい喜びです。それはある時には、働きを続けていく力となり支えとなり、励ましとなります。あの一言、添えられた聖言によって危機的な状況を脱することができた証しをしばしば耳にし、私の実体験でもあります。

私たちはいろいろな機会に祈ります。朝、一日の祝福を祈り、夜、一日のみ守りを感じます。家族の救いのために数えきれないぐらいの祈りを続けてきました。家庭や職場、学校のため、日本の国のために、アジアや世界の平和のために祈ります。毎週の祈禱会でも、教会や兄弟姉妹のため、世界宣教の働きのため、コロナの収束のためにも祈り続けています。それらの祈りはどうなつたでしょうか？ 私たちがささげる小さな祈りは、すべて主の御前に覚えられています。神さまの時、神さまが一番良いと思われる時に、一番良いと思われる形で応えられていくのです。「あなたの祈りと施しは神の前に立ち上って、覚えられています。」(使徒の働き一〇章4節)



CAMBODIA

カンボジア

蔦田緑乃*2021年12月4日

「主は言われた。『わたしの臨在がともに行き、あなたを休ませる。』モーセは言った。『もしあなたのご臨在がともに行かないのなら、私たちをここから導き上らなさい。』」

新年のお喜びと、昨年一年間、「お祈りの座の宣教師」としてともに霊の戦いを押し進めてくださいました皆様主にあって心から感謝申し上げます。

昨年11月の終り頃ヴァンダイ師から突然の朗報でカンボジアの入国禁止令が解除、いつでも来れます、と連絡を受信。しかし2、3日後にオミクロン株への警戒が世界中に届きました。主の御心を探りつつ11月末に定例スカイプトークでグレッグ師とヴァンダイ師と個別に現地の情勢報告と協議の時をもちました。お二人から、主がKCCの働きを前進させ、かねてから私の心中にありながら祈りに委ねていた方向に転換がなされた

報告をお聞きしました。この一年間、KCCは外面的にはむしろ後退かに見える状況でしたが、この方向転換への決断の結果、祈っておりました方向にKCCが前進するようになり、外からは見えない主のお働きが先生方の心中に続けられていた事を領かせていただきました。時として不信仰に陥っていた事を主に赦していただくひと時でした。

それはこの方向転換で前進するためにIGMからの「愛の泉コイン献金」が用いられて可能となったプロジェクトです。グレッグ師が彼の開拓したPCC教会をヴァンダイ師の牧会に委ねて巡回教師となり、地方に散って労している伝道者の再教育、地方の教会の建て上げに当たるといふ企画です。地方の伝道者はブノンペンまで出て来るには時間も経済も困難で、学びや交わりに集まれる伝道者は少ない実情にあります。その働きのためにはガソリン代がかかるため、この目的の巡回旅行は米人宣教師マーク師が同行して燃料費も彼の活動費から出しておられたとのこと。彼が米国に帰国中は巡回旅行は中止、加えてコロナの規制により地方の伝道者は孤立し、交わりもなく霊的一致も危うくならざるを得ない、という中で、グレッグ師の心に主がこの道を指された方向転換でした。

新しい踏み出しに当たり、冒頭の聖句を基として出発をするカンボジア宣教の旅路にもモーセと

もなる神様のご同行、御指導が成就しますよう、お祈りを切にお願ひ申し上げます。 ■



TAIWAN

台湾

久保光彦・せきな*2021年12月7日



11月17日で台湾に入学して6か月が経過しました。5月の緊急出国、台湾入国に始まり、隔離生活、教会での奉仕、子どもたちの学校や幼稚園の開始、宣教車の取得とこの半年は本当にイベントに満ちた半年でした。家族も教会も守られて、ここまで来ることが許されています。背後にある皆さまの尊いお祈りに感謝いたします。

してから実に半年後となりましたが、教会の方々が料理やお菓子を持ち寄って、歓迎の意を改めて表してくださいました。普段はなかなか参加できない方が来てくださったことも非常に感謝でした。教会の働きとしては、依然として警戒レベル二級が続いている中、主日礼拝、こども礼拝、祈り会を継続しています。国際基督教會という名前の通り、時に中国語、英語も飛び出す国際的な雰囲気です。11月末には教会関係の高齢者の方を病院に訪問することが許されました。ほぼ90代のご夫妻で、「日本語世代」(使用している言語が台湾語と日本語)と言われる年齢層に属する方です。一緒に行ってきた教会員の方とともに、讃美と祈りの時を持つことができました。ロビーのようなところで讃美を歌っていると、日本語の歌に反応したほかの方が話に入ってこれ、話の流れでその方が日本海軍の歌を歌い出すと、お見舞いしていた方も釣られて歌い出すという出来事もありました。

クリスマスに向けての準備も始まりました。今年は夏ごろから有志によるウクレレ部(?)が始まり、毎週礼拝後に練習が行われています。クリスマス・イブの集いの際にも何曲か演奏していただくことになりそうです。新型コロナウイルスの脅威が続いている中でのクリスマスの諸集会の上にも豊かな祝福がありますようにお祈りください。これから年末年始、旧正月に向

けて国外からの人の出入りも増加することが予想されますが、新型コロナウイルスの国内での大規模感染などが発生しないように、お祈りに覚えていただけますなら感謝です。 ■



PHILIPPINES

フィリピン

豊田常喜・恭子*2021年12月3日

ファイリピンでは、デルタ株の感染者急増の峠を越し、現在は感染者数は減少し、隔離措置の規制もだいぶ緩くなってきました。ワクチン接種のためにお祈りいただきありがとうございます。11月19日に無事に2回目の接種を完了することができました。これで国内外の出入りや活動が比較的に容易になります。常喜、恭子の2回目のワクチン接種の2週間前には大使館より在邦人の12歳以上のワクチン接種の案内があり、希乃実が対象年齢ですので申し込み、26日にはマニラまで接種に行きました。接種後の副作用として、常喜、恭子は2日ほど熱があり、希乃実は接種した腕に痛みがありました。11月17日となります。

11月24日、ファイリピン・ウェスレアン教会の第2代総理であったアルフォンソ・パブロ先生が82年の生涯を全うされ召天されました。ウェスレアン教会の総理として16年間リーダーシップを発揮され仕えてこられました。また国際的にもウェスレアン世界フェローシップ(WWF)の議長として活躍されました。私たちはパブロ先生が引退された後にファイリピンに宣教師として派遣されましたが、引退された後もパブロ先生と交わり、その人格に触れ、彼の説教を聞く機会が与えられました。カリスマ性に富み、愛に満ちた人柄で皆から愛され、そして神様に愛された器でした。常喜はナザレンセミナーで学んでいた時にパブロ先生の説教のクラスを取り、そこで多くのことを学びました。パブロ先生はセミナーに在籍していたウェスレアンの学生たち(私も含め)と交わりの機会を設け、語らい、励まし、慰めてくださいました。引退後もリーダーシップや家族についての本を執筆して何冊か出版され、70代後半には博士課程で学ばれ、牧会学の博士号を取得されました。最近、ご息子がSNSでパブロ先生が本を読んで学ばれている姿の写真を投稿されているのを見て、最後まで神と向き合う姿勢に感服しました。30日には教団葬に近い形で記念会がここロサリス・ウェスレアン大学のチャペルで催され、200名ほどが参



列しました。司式は前総理であったパタクシル先生がなさりメッセージを取り次がれました。アメリカのウェスレアン教会、ウェスレアン国際フェローシップ、そしてIGMからは梅田昇先生(前ファイリピン派遣宣教師)の弔文が読まれました。ご遺族の慰めと励ましのためにお祈りください。 ■



KENYA

ケニア・テヌウェク

葛田就子*2021年12月10日

車の同乗者制限や夜間外出制限の解除など、新型コロナウイルスの感染予防のためにかかっていた規制がワクチン接種の拡大などで少し緩

くなったことを受けて、今までよりも移動が可能になりました。テヌウエク病院から眼科チームが南スーダンに一週間近く医療キャンプに行っていました。目が見えるようになるために6日間歩いて治療を受けに来た女性、前回チームが訪問した時に医療資材が尽きてしまい、今回の機会まで3年間待っていた男性などがおられたそうです。福音と医療が届けられ、チームが去る前に受洗を希望した方々もおられたとのこと。長年テヌウエク病院の眼科部門で奉仕されたP元宣教師ご夫妻も現地合流してチームと一緒に奉仕された後、テヌウエクを再訪問され、感謝祭の期間を過ごされ感謝でした。宣教師が集まったの感謝祈禱会では、久しぶりにP元宣教師のノコギリでの賛美演奏が披露されました。身近なところでも、手術室スタッフの家にみんなで訪問することも再開されました。通勤用のバイクが3回も盗難に遭い、有志の声掛けで手術室スタッフが彼のために新しいバイクを購入しました。ちゃんと献別のお祈りをもって渡したいと、週末に彼の家に集まりました。夜勤明けのスタッフなども含めてさっさと行って昼には帰るような話だったのですが、村の方々、親戚、教会の方々なども集まって、一日がかりの行事になっており、ここはそういう場所だった、と久しぶりに思い出しました。帰ってきたのは夕方でした。それだけ関係者の方々にも喜びが大き

かったという事で、それらの方々が歌いながら新しいバイクを迎えました。盗難に遭った時は、いつも誇らしげに洗車をしていた息子さんたちの落胆が大きく、小さい息子さんが近くの町に捜しに行こうと言いついで何度も説得されてようやく思い止まった事、丁兄弟本人の落胆がとても大きかった事、それでも周囲が「この際魔術で探しても良かったら？」と勧めるのは「それはできない、神様だけに頼る」と賛成しなかった事、なども多くのスピーチの中で紹介されました。バイクだけでなく、ヘルメットや反射板の付いた服も贈呈され、「自分でバイクを購入した時は勧められてもヘルメットが買えなかったから」と感謝しておられました。朝から果物や昼食で飲待され、手編みのかごや装飾されたひょうたん、生きた鶏などが贈られ、最後はたくさんのンダジ(揚げパン)とチャイがふるまわれ、こちらが受ける方が多すぎたのでは？と思ってしまう事でした。新型ウイルスに感染して自宅待機中に母、続いて祖母の訃報を受けたスタッフや、夜勤明けの時間帯に突然兄弟が亡くなったことを電話の調子が悪かったため知ることができず、次の夜勤のために病院に来てから初めて知ったスタッフ、それぞれのご葬儀に手術室スタッフが参列することもできるようになり、悲しみの中にも慰められ励まされた、と感謝の言葉がありました。■

世界宣教師局庶務部より

小笠原哲也

「全世界に出て行き、すべての造られた者に福音を宣べ伝えなさい。」(マルコ一六章15節)

世界宣教師局庶務部は、冒頭のみことばをもって宣教の働きに携わっておられる宣教師方の生活と宣教の働きの隠された部分をお支えしている部署です。庶務という言葉通り種々雑多な事務を取り扱っております。

主要な働きは会計事務で、全国教会員のお祈りと貴重な献金によつて宣教師とご家族の生活をお支えしています。毎月、生活費、活動費などの名目で定期的に送金いたします。また各宣教師の現情に合わせたの宣教活動の原動力、潤滑的な働きと理解しております。宣教活動と日常生活のあらゆる必要をお支えできるよう、活動費をできる限り計数化し、月ごとの献金収入額、生活費、活動費などの支出総額、月末残高などの会計報告を作成して記録、保存します。

その他、我孫子市のミッションハウスの維持、管理(光熱費、電話代などの支払い)や、宣教地への教報、つばさ誌の送付作業なども業務に含まれます。献金の取り扱いについては、すべての事をご存じのイエス様が、ユダの言動に対応されましたこと

を常に覚えながら、処理をしております。字数の関係で言い尽くせませんが、毎年11月に持たれます宣教師日記念礼拝の宣教師日献金、宣教コイン献金は、世界宣教師局庶務部にとりましても本当に貴重な宣教活動の原動力、大きな支えとなっておりますことを報告し、感謝を申し上げます。最後に、引き続き宣教地のために、お祈りに覚えてくださいますようお願い申し上げます。

■会計報告11月分

宣教師金 一、三三二、一〇七円
月平均 一、五〇一、七〇〇円

お祈りの課題

- ◆カンボジア(篤田緑乃)
- ◆グレッグ師による伝道者再教育の働きが聖霊の管とされ伝道者の霊的、知識的、実践的面に変貌と成長が見られるように
- ◆二つの教会を合併してクメールの教会を建て上げつつ、弟子訓練にも引き続き力を入れて労するヴァンディー師のお働きに上よりの力と結実を
- ◆篤田の霊性と精神、肉体が健全に支えられるように
- ◆台湾(久保)
- ◆クリスマス集会が祝されるように。このような時代だからこそ、クリスマスにイエスさまに出会う方が起こされるように

- ◆年末年始、中華圏の一大行事である旧正月の時期に、新型肺炎の新規感染増が発生しないように
- ◆牧師家族、教会のみなさん、特に高齢の方々のご霊肉が守られるように
- ◆フィリピン(豊田)
- ◆聖書大学の学生たちと先生たちがオンラインクラスでうまくコミュニケーションが取れ、霊肉ともに守られるように
- ◆来年度から対面授業を計画し、そのための経済的必要と準備を整えられるように
- ◆事故、事件、怪我、過ち、災害病、疫病から家族が守られるように。常喜の網膜静脈閉塞症、恭子の甲状腺嚢胞の回復のために
- ◆香港(鹿島)
- ◆教会も個人も今年のみことばに生かされ、与えられている使命を果たしていくことができるように
- ◆経済的な困難や健康的な課題の中を通されている方々に上よりの助けが豊かに与えられるように
- ◆香港のポーター政策が緩和され、出入りの自由が与えられるように
- ◆必要なヒザが備えられるように
- ◆ますます中国化されていく中で、言論や思想の自由が守られるように
- ◆ケニア(篤田就子)
- ◆主任不在中も守られている感謝
- ◆ご家族を亡くされたスタッフや関係者に慰めがあるように
- ◆麻酔科、整形外科の働き人(ルカ一〇章2節)が起こされ、主任不在期間が守られるように

聖宣神学院報



Immanuel Bible Training College

爲ん方つくれども希望を失はず

院長 ● 林 正弘

「私たちは四方八方から苦しめられますが、窮することはありません。途方に暮れますが、行き詰まることはありません。」

(Ⅱコリント四・8)

主の恵みのうちに守られ、新しい年を迎えました。昨年も皆さまから厚いお祈りと貴いご支援を賜り、心より御礼申し上げます。今年も変わらぬに神学院を覚えて祈り、支えてくださいますよう、お願い申し上げます。

神学院では、コロナ禍にあつてできなくなつたこともありましたが、制約のなかでも日々の授業や教会で実習を継続することができ

のぞみ うしな

ました。メンテナンス委員会の御労をいただき、施設整備も順次行われていきます。良い学びと生活の環境を整えられ、神学生の方々も温かい雰囲気の中で励んでいます。これからの必要なものは備えられていくことでしよう。一つ足りないことがあるとすれば、このキャンパスを満たすべき神学生だといえるかもしれません。ただそれは、人の手によつて備えられるものではありません。

私たちには、どんなに願つても努力してもその通りにならないことがあります。簡単にあきらめられないことであつても、厳しい現

実を前にして断念せざるを得ないことがあります。それでも絶望せず前に向かつて進んでいきたいと願います。

パウロは、福音を宣べ伝えることに全力を傾けますが、想像を絶する困難に直面します。それを表すことばの一つ、「途方に暮れる」とは、どうしてよいかわからない、もうだめだ、これ以上打つ手はない、という状態です。

しかしパウロは「行き詰まることはありません」と断言します。文語訳聖書によれば「希望を失わない」ということです。私たちに打つ手が見つからないかもしれない。それでも希望をもつていきたいと思ひます。その鍵となるのは復活の主です。復活の主とともに歩むこの一年でありますように。



週2回台所の奉仕をしていただき、感染防止を心がけ食事を共にしています

聖宣神学院入学案内

簡易書留でご送付ください。

この春、入学審査受験を希望される方は、以下を読み、間違いのないように手続きを行ってください。

◆出願資格とコースについては、ホームページ等でご確認ください。

◆出願書類 以下の書式一式を神学院宛請求してください。

一、所属教会牧師推薦書 1通

二、教会信徒推薦書 1通

三、入学願書 1通

四、健康診断書 1通

五、戸籍謄本 1通

六、自筆履歴書(市販書式) 1通

七、写真(履歴書に貼り付けたものの他に一枚) 計2枚

八、最終学歴の学校の卒業証明書(本年見込みの者は、それに代わる書類) 1通

九、最終学歴の学校の成績証明書(本年見込みの者は、それに代わる書類) 1通

十、新生の証し(A4用紙横書き、長さは自由) 1通

十一、召命の証し(A4用紙横書き、長さは自由) 1通

◆出願方法

志願者は出願書類の三十一をそろえて所属教会の牧師に提出してください。所属教会の牧師は一の所属教会牧師推薦書と二の教会信徒推薦書を加えて封筒に封入し、

◆出願期限 2022年2月21日(月) 必着

◆審査日程 2022年3月7日(月)

◆審査会場 聖宣神学院

◆検定料 いただいております。

◆審査科目 書類審査、筆記試験(聖書、一般)、面接

◆合格発表 一週間以内に受験者宛に郵送で通知します。

◆その他の注意事項

▽所属教会の牧師と相談して出願してください。教会の承認を得て送り出されることは大切です。

▽試験日には、普段使用している聖書を持参してください。

▽主の召命の意味を心に留め、真実な教会生活を心がけてください。

▽入学後の経済について所属教会牧師と話し合ってください。

▽イムマヌエル教会出身の方は、『イムマヌエルの六十年』などを読み、教団の歴史と信仰について学んでおいてください。

▽神学生納入金は、入寮生は月額三万円程度です。聴講生は科目数で受講料が決まります。その他、書籍代、交通費、食費など生活に必要な経費がかかります。入学金はあります。

▽経済的な理由で学びが困難と思われる学生のためには奨学金制度(貸与)があります。

いま神学院では……
ウェスレーを学ぶ (1)
 教師●藤本 満



メソジスト——

福音を人々のいるところに
 今年10月からオンライン講座
 で「ウェスレーを学ぶ——ざっく
 り・がつり」を8週間いたしました。
 多くの皆さまに受講していただき、
 12月から「がつり版」として神学院で
 学んでいます。いまさらながら、
 想像するだけでゾクゾクする光景が
 浮かびます。

メソジスト運動は1739年4月2日、
 ウェスレーがブリストルの野外説教に
 立ったときから始まります。彼を
 招いたホイットフィールドは、数日前に
 やり方を教えてくれました。それを見た、
 ウェスレーは驚愕して日記に記して
 います。

「最初、私はこの異様な野外説教の仕方に
 馴染めなかった。……私は魂を救うこと
 が教会内でなされないなら、罪に等しいと
 さえ考えたいのだ」

福音の説教を教会の外へと持ち出し、
 これほど大規模な聴衆を相手にしたのは、
 教会の歴史で最初の出来事でした。
 教会に人が集まるのを待っているのではなく、お

およそ教会には来ないであろう人々のいるところに説教を持ち出す。

さらに私たちには想像もつかない光景ですが、
 ウェスレーは野外で聖餐式を執行する
 ようになります。聖餐こそはキリストの十字架
 そのものであるとの確信をもって、語る以上
 に十字架の愛を見せる、味わう。それが聖餐
 です。野外で十字架にかかったイエスが、
 両手を広げて、人々を招きます。何百人と
 一列に並んで聖餐にあずかります。ウェス
 レーは聖餐を教会の外に持ち出した最初の
 人物でした。さらに驚くことは、そのわずか
 6年後に、弟のチャールズが聖餐式の讚美歌
 集(166曲)を出版します。聖餐にあずかる
 ために並んでいる人たちが賛美します。歌い
 ながら、自分の罪がイエスを十字架につけた
 こと、しかしそれは人類の罪を赦すための
 神のご計画であったこと。私はいま、救い
 にあずかるためにイエスを信じる、と賛美し
 ます。説教の何倍も心に染み入る福音の語
 りを讚美歌の歌詞から受け取ります。

ウェスレーが、たとえ野外であろうと人々
 のもとへと届けたのは、説教だけではあり
 ません。聖餐として賛美です。そのような光
 景は、これまで教会の歴史でも見たことが
 ありません。

コロナ禍でのオンラインの礼拝・説教・聖餐
 ——それもまた人々が誰も見たことがな
 かった宣教の働きでした。

「ところが、神の恵みによって、私は今の私
 になりました。」
 (IIコリント一五・10)

同窓生の近況

60期生
 岐阜教会●大場広子



召命の声をかけてくださった主の恵みにより、
 今日まで導かれてきました。また、多くの先生方、
 兄弟方のお祈りにも支えられております。心より感謝いたします。
 神学院を卒業して10年が経とうとして
 います。現在ご奉仕させて
 いただいている岐阜教会は7年
 目になります。6年前に、
 年度の途中で二人体制から一人
 体制の奉仕となり、その時は
 目の前のことに追われる日々
 でしたが、今では少し心にゆとり
 をもつことができるようになりました。

教会の周辺は昔からの慣習が残り、
 人々の絆が強い地域のため伝道方法に
 知恵を要しますが、主はさまざま
 な角度から伝道の機会を与えて
 くださっています。先日、ギデオン
 の方からお誘いを受けて、教会の
 近くで中学生に聖書を配布しました。
 主が備えてくださる伝道の機会を
 逃さず、与えられた働きを忠実に
 行い、主の御業を見せたい
 できたと願っております。

いつもの本欄とは趣旨が違うかもしれませんが、
 入学案内を見て改めて自分の入学前後のことを
 思い起こして書いています。
 当時は3月末の年会最終日翌日
 が入学試験でした。3月になって
 も大学で論文提出後の残務整理が
 続き、年会週に入ってアパートを
 引き払ったものの大学に
 引き続いて卒業式の日
 に引継ぎを終えて新幹線に
 飛び乗り、そのまま神学院
 の年会聖会に滑り込みました。
 まったく準備ができていない
 ま試験に臨みましたが、入学が
 許され、1週間後には入寮
 でした。年会などで訪れていた
 といえ、神学院のことはよく
 知らないまま入学し、戸惑
 うことばかりの始まり
 でしたが、終わってみれば
 恵みに満ちた4年間でした
 (詩篇一三八・8)。思い切
 って飛び込んでよかった、
 と心から感謝しています。

神学院スタッフ…恵みの想起

院長 林 正弘

●12月6日(月)夜、神学院祈りが
 オンラインで開かれました。
 今回は1月31日(月)夜7時半から
 です。

●12月14日(火)、深川教会の信徒
 5名が、屋内外の清掃のご奉仕
 をしてください、感謝いたします。

●12月20日より冬期休講に入ります。
 1月は11日(火)に授業が再開
 されます。各授業と神学生方の
 学びのために祝福をお祈り
 ください。

●12月22日(水)夜、神学生と
 スタッフでBTCクリスマス会を行
 い、良い時をすごしました。

●学務課の馬場姉は、退院して自
 宅で回復に努めておられます。
 引き続きお祈りください。

●昨年1年間のお祈りと献金による
 ご支援をありがとうございます。
 今年も引き続き、ご支援をよろしく
 願います。献身者が起こされる
 ようにお祈りください。

サポーターズ

尊いお献げものに心より感謝
 申し上げます。11月の会計
 報告をさせていただきます。

11月分支援実状
 [今年度毎月献金目標]
 ￥1,500,000

教会員による「神学院サポート献金」
 ￥705,750
 教会団体による「神学院献金」
 ￥567,020
 合計 ￥1,272,770
 その他の献金(一時・特別)
 ￥17,000

・振替：00230-0-10138

学苑だより



教育局 青少年部から……

青年の3つの活動 将来には希望がある!



青少年部コーディネーター 吉村和記

それを否定しているように見えませんが、「あなたの将来には希望がある」との主のことは信じます。必ず実現します。今年も信じて青年の働きに尽力したいと思います。

■ 昨年のYSB (30代・40代)

昨年の11月21日(日)に、6月に続く2回目のリトリートがオンラインで行われました。テーマは「神様と教会と私の足あと」。「教会」をテーマに掲げた第二弾でした。一回目は「教会」に、2回目となる今回は「私の足あと」に強調点が置かれ、教会とともに歩んできた3人の証しが語られました。それぞれの等身大の証しは同世代の一人ひとりが抱えてきた問題意識を代弁し、まだその渦中にありながらも、教会で祈られ、励まされて今の自分があることが浮き彫りにされた素晴らしい内容でした。特に、YS世代から共に委員として携わってきて、いま夫婦となっていているお二人の証しは説得力をもって心に響いてきました。

「あなたの将来には希望がある。——主のことは——あなたの子らは自分の土地に帰ってくる。」
(エレミヤ書三一・17)

昨年、青少年部の責任を担うにあたって、祈りの中で示され、最初の会合で開いたのがこの御言葉でした。ラマに集められた民たちが、そこからバビロンに捕囚民として連れて行かれる時、わが子と引き裂かれた母親たちの「嘆きとむせび泣き」が怒涛の如く響き渡ります。その涙に対する主の宣言がありました。「あなたの子らは帰って来る。」そして「あなたの将来には希望がある」と。

■ 昨年のRe (アール・イー)

西日本ブロックの青年部が主催・運営し、中国教区青年部が共催したユースの集い「Re」が、昨年12月12日(日)にオンラインで行われました。5月に続く二回目の集いで、講師の伊藤安司先生(深川教会・定住伝道師)から、クリスマス・ストーリーを土台にした、大会テーマ「Re:love(喜び)」に沿ったメッセージが語られまし

た。一人一人の苦しみ・悲しみをキャッチし、私たちの理解者としてこの世に来て下さったイエスさまのことが、先生の体験談を通してリアルに心に伝わってきました。

■ 今年のビルド (大学生以上)

ビルドは、オンラインで毎月1度、15〜20名ほどの参加者で、1つのテーマに基づいて分かち合ってきた集いです。今年は、毎回、候補に挙げられ、慎重に祈りながら温めてきた「LGBT」をテーマに取り上げることになりました。1月と2月の2回シリーズで、ゲストに藤本満先生をお迎えします。一括りに「LGBTとは?」という学びとしてはなく、当事者である一人の「人」とどう向き合うか。参加される皆さんと一緒に、まずは知ることから始めたいと思います。1/30(日)と2/27(日)、いずれも午後7時からです。お祈りください。

昨年コロナ禍に悩まされた一年でした。しかし、その禍いからオンラインという道を神さまが開いて下さいました。今後、対面で現地開催という集いを持つことも許されるでしょう。その時、オンラインだからこそ培われてきたこれまでの関係性の広がりや深まりが、さらに開花し、結実となっていくことを期待しています。将来には希望があります。今年も、青年一人ひとりのためにお祈りをよろしく願います。

* 昨年

信徒局からのお知らせ

信徒局の諸活動 幅広く展開中です



信徒局長 斎藤純雄

▼教団のHP信徒局コーナーのご紹介
見逃し講演配信中です。是非、ご視聴ください。

1 第一回インマヌエル信徒フォーラムの講演(朝岡勝先生)
2 カナ・フェロシップオンライン・セミナー(10月23日開催)の結婚講座(内山勝先生)「結婚の偉大な奥義」、主に喜ばれる結婚を目指している兄弟はもろろんのこと、既婚者も聖書が語っている結婚についての良き学びができますので必見です。《どちらも》インマヌエル総合伝道団」の公式サイトから入れます。》

▼第一回信徒局エリア連絡協議会の開催
12月13日夜NOOJによって26名が参加し、待望のエリアと信徒局担当者の初会合を持つことができました。まず全員の初顔合わせが大切でしたので、日程調整ソフトを使い、最多の参加者が得られる日を選びましたが、それでも6名の方の調整がつかず、申し訳ありませんでした。次回はもう少し少人数に小分けをして、さらに充実した話合いの時を持ちたいと願っております。

▼第一回インマヌエル信徒フォーラム、結果報告
11月23日(祝日)にオンラインで開催されました。YouTubeのライブ視聴者は午前の部196人、午後の部が164人でした。NOOJによる分かち合いには47人が参加し6グループに分かれて交わりの時を持ちました。また教会で集まってYouTubeを視聴し、その後に分かち合いを持たれたケースもありました。

NOOJ参加者の中から現在30通を超えるアンケートが寄せられておりますが、5段階評価の4、5が97%という高評価をいただいております。分かち合いについても他教会との交わりが良かったとの評価ですが、さらに工夫が必要であるのご意見もあり、今後の課題といたします。

現在、講演内容はHP上にアップされており累計1260名ほど視聴しております。

参加者総勢26名の内16名がエリア担当者、18名が信徒でした。全員が自己紹介と信徒フォーラムの良き感想を述べられ、全国IGM諸教会から主が送ってくださった主の聖徒方であることに御名を崇めております。

公報

本部通達

恭賀新年

「新しい歌を主に歌え。主は奇しいみわざを行われた。主の右の御手 聖なる御腕が主に勝利をもたらしただのだ。」(詩篇九八篇1節) 2022年も、昨年来の新型コロナウイルス感染症の影響を受けながら迎えました。イムマヌエルの各教会、教団全体に主の導きと祝福が豊かに満ちあふれ、歩み出すことができるようにお祈り申し上げます。

■本部

▽本教団に属するすべての教会は、条例第81条の定めに従い、1月中旬に新年度の「教会総会」を開催します。教会員は、所属教会の総会(昨年度教勢報告や承認、新年度の活動方針発表などがなされます)にご出席ください。コロナ禍で日程などの延長を「予定の教会は代表の承認を得ていただきたく存じます。国内教会局で作成された「コロナ禍での教会総会の持ち方」についてのガイドライン」も参考にしていただきますようお願い申し上げます。

各教会は年会資料となる「年報」を1月18日(火)までに本部宛に提出をお願いいたします。

▽来年の年会後の転任異動期間は、原則として4月4日(月)～9日(土)とし、予備日を4月16日(土)までとします。

■総務局

2022年度の教団主要行事予定表(暫定版)を、昨年12月に各牧師宛に配布致しました。日程に変更や修正がございましたら、可能な限り今月中に本部総務局(担当・中山朝雄)までお知らせください。

なお、第77次年会資料作成のため、各局・委員会・教区宛に、報告原稿をお願いしていますが、締切は1月17日(月)となっております。年会資料は事前送付を考慮しておりますので、ご理解とご協力をお願い申し上げます。

〈財務委員会〉

昨年の責任役員会において、2020年度の教団予算案が審議され承認されました。昨年度の本部費等(融資返済を含む)本部振替送金は、会計整理の都合上、1月14日までに手配をお願いします。

〈教職按手札試験について〉

教職按手札試験の受験希望者は、3月末までに総務局へ申請書をご提出ください。(申請書は、教団HPトップページ左欄、総務局書類のタグからダウンロードできます)。相談は各地域担当プロックアドバイザーまで。なお、長期に亘り教職試験の職位にあられる牧師夫人の方々には、昨年と同様に「ご案内を差し上げる予定です。」(教団四献金について)

◆国内宣教献金

今年も宣教活動推進のために、各教会で以下の諸献金へのご参加をアピールして頂ければ幸いです。

◆世界宣教献金

◆神学院サポート献金

◆厚生資金献金

〈第77次年会〉

本紙中にもありますように昨年に続いてオンライン開催となります。年会招集状は1月下旬に年会員へ送付されます。例年通り年会資料を事前送付いたしますので、文書による質疑受付期間と応答期間を3月1日以降に設けます。

■国内教会局

▽中京教区新年合同礼拝
2日(日) Zoom 配信
講師Ⅱ 内山勝師

▽関東四教区新年聖会
1月10日(月)
午前 聖会Ⅰ 午後 聖会Ⅱ
テーマ『この時にこそ、キリストと共に』

■世界宣教局

▽根廻恵子元宣教教師は、昨年10月末に双子の赤ちゃんを出産されました。お名前は介(かい)くん(か)と基安(きあん)くん(くん)です。ザンビア人であるご主人のボブ・コンベニンダ兄は神学校で学びを続けておられます。ご一家を覚えてお祈りください。

▽12月9日(木) 午後、運営委員会を開き、2022年度の年間活動予定や方針などを話し合いました。1月の運営委員会は、13日(木)に予定されています。

▽11月30日(火) 午後、IWF理事会が行われました。

▽アメリカに帰国中のマツツ宣教師ご一家、ホーリー宣教師のサポートが十分集まるようにお祈りください。

■教育局

〈教育部・生涯学習課〉

▽第3回若手牧師研修リモートミーティング
日時Ⅱ 3月3日(木) 午後1時半～4時
テーマⅡ 「教会運営について」
▽有志による読書学び会
聖潔の良書を用いて、少人数のグループによる読書学び会を春頃から開催予定。

〈教育部・信徒教育課〉

▽信徒向け聖書講座(無料、各教会で自由に利用可)。
内容Ⅱ 「使徒の働き」の学び(第13回目まで公開中)。
講師Ⅱ 若上敬人師(丁E.A.総主事)
詳細は富士見台教会Ⅱ野田師まで

▽過去の信徒聖書講座

内容Ⅱ 「主の祈り」(藤本満師、第6回目までアップ中)
〈青少年部・青年課〉
▽ビルド(月に一回開催)
1月、2月のテーマ「LGBTについて」
ゲストⅡ 藤本満師
〈青少年部・中高生課〉
▽とにキャンフェスティバル
(Zoom開催)
日時Ⅱ 3月29日(火)
日時Ⅲ 3月29日(火)

■聖宣神学院

▽入学審査を3月7日(月)に行います。出願は2月21日(月)必着です。受験を考慮してもらえる方

は本誌掲載の「聖宣神学院入学案内」を読み、間違いのないように手続きを行ってください。

▽神学院祈り会は、1月31日(月)にZoomで行います(1、2月合併)。

▽ホテルハウス宿泊利用再開はもう少し様子を見ます。

■出版事業部

つばさ誌に掲載している「日々の聖句」は、FacebookとInstagramとTwitterで毎朝、ミニ動画でも配信されています。デイポーションにぜひ活用ください。左記のURLとQRです。

<https://www.facebook.com/hibino.mikotoba>

<https://twitter.com/365tubasa>

<https://www.instagram.com/365tubasa/>

消息報告



▼橋本敦子師(引退牧師)住所は、祈りのネットワークに掲載の部屋番号が107号室となっております。が、正しくは109号室です。お詫びとともに訂正いたします。教報PDFパスワードⅡ 8107

発行人 岩上祝仁 編集者 寺村秀嗣
発行所 東京都千代田区神田駿河台一

印刷所 埼玉県比企郡鳩山町熊井七〇
OCCビル イムマヌエル綜合伝道団本部

新生宣教団 定価 一部110円(税込)
郵便振替 001107133609